研究開発の革新・ハードソフトの兼備

研究開発は産業の持続的発展の源泉であり、2006年、南科は研究開発の面でも確実な発展を見せた。先ず、最も注目を集めたのは11月16日に行われた聯電科研究開発ビルの棟上式典である。棟上は主な構造工事の完成を意味し、聯電の南科における発展の重要な一里塚となったと同時に、「研究開発」が南科において確実に進められることを示すものである。

また、11月にも研究開発に対する高雄園区の強い決心が示された。11月6日、「産学創新センター委託運営」を落札した財団法人成功大学研究発展基金会が高雄園区に正式に進駐し、地域の科学技術産業交流センターの設立計画、及び各産業、官、学術の資源統合と人材育成計画を推進していくことになった。14日には南科管理局の高雄園区事務所が産学創新センター、工研院デジタル家庭・デジタルテレビ検証実験室、FTTx+PLCブロードバンドサービス模範計画と共に開幕式典を行った。

台湾における産業分布を見ると、電気通信産業は半導体及びフラットディスプレイ産業に続く花形産業であり、高雄園区においては工研院と通信技術センターを二つの軸に、更に産学創新センターを後ろ盾として、完全な電気通信園区の建設に力を入れていく計画である。

聯電「南科研究開発ビル」棟上げ式典記念撮影(11月16日)

高雄園区産学創新センター合同オープン式典(11月14日)

バイオテクノロジー産業の発展・世界市場への販路拡大

ソフトハード設備の研究開発のほか、関連知識の交流と充実もまた非常に重要である。南科管理局は2006年8月10日に国家バイオテクノロジー医療産業策進会(生策会)と共同で「バイオテクノロジー産業の発展－台湾南部活性化シリーズシンポジウム」を開催し、「バイオテクノロジー医療産業商業モデルサミットフォーラム－世界市場への販路拡大」をテーマに、バイオテクノロジー企業がより深く市場を分析し、研究開発等の課題に取り組めるよう、産業関連技術者の交流を行った。

同様の活動として、10月17日、18日、渓頭立徳ホテルにおいて南科世界市場供給チェーンと運営管理研究会を開催し、台積電、奇美、聯電、中強光電、瀚宇彩晶、能元、漢民、聯宗、盟立等企業の代表、及び南科管理局、南科税関支局長官、園区組合事務等数十人が参加した。

2006南科グローバルサプライチェーンと画策管理シンポジウム、講師と全学生記念撮影(10月17、18日)